

淀川水系流域委員会殿

2008. 5. 12

佐川克弘

## 規模は甲子園並？関西文化学術研究都市

貴委員会は、京都府水需要予測の精査確認結果について、納得できるまで河川管理者から説明してもらう必要があると考えます。このことは5. 10付意見書でも要請いたしましたが、都市活動用水に関する私の記述を見逃されるかもしれないと感じましたので、問題点を重ねてご連絡いたします。

私は、都市活動用水として加算された「学研都市等大規模開発の需要水量2, 586 m<sup>3</sup>/日」から、学研都市に通う研究者が5万2千人と試算しました。正に甲子園並です！一人一日当たり50リットルとして試算したのが誤りだったのかもしれませんが。それでは一人一日当たり258. 6リットルとすると、研究者の人数は1万人となります。しかし研究者は、3食とも研究所で食事をし、研究所で風呂に入り、研究所で洗濯するはずがないので、1万人はあり得ないと考えます。しかもあり得ない1万人という人数は半端な人数ではありません。

このように河川管理者の説明には疑問が残っているのです。

河川管理者に説明してもらう必要があると思われる項目を列挙いたします。

1. 2, 586 m<sup>3</sup>/日の算定根拠：原単位およびそれを裏付けるデータ
2. 学研都市の建物延面積、勤務する研究者の人数と需要水量
3. 学研都市以外の大規模開発（学校、ショッピングセンター等？）を個別に建物延面積、教員を含む生徒・学生の人数（学校の場合）従業員の数と来店者数（ショッピングセンターの場合）、それぞれの需要水量。

なお、既存市街地の新規開発2, 129 m<sup>3</sup>/日についても説明してもらう必要があります。

以上